

YP-D7

NATURAL SOUND

DIRECT DRIVE PLAYER MODEL YP-D7

ヤマハダイレクトドライブステレオレコードプレーヤーシステム

取扱説明書



●規格

■フォノモーター部

駆動方式……………ダイレクトドライブ
モーター……………12極24スロットFGサーボDCホールモーター
ターンテーブル……………31cmアルミダイキャスト(重量 1.6kg)
外周ストロボ
回転数……………33 $\frac{1}{4}$, 45rpm 2スピード
回転数調整範囲…………… $\pm 3\%$ 、以上各回転数独立調整
SN比……………62dB以上
ワウフラッター(WRMS)……………0.03%以下

■トーンアーム部

型式……………S字型高感度スタティックバランス
ジィンバルサポート方式
アーム全長……………320mm
アーム実効長……………232mm
オーバーハング……………16.0mm
針圧調整機構……………針圧直読方式・0~3g

取付カートリッジ自重範囲……………2~15g(サブウェイト使用時9~23g)
ヘッドシェル……………マグネシウムダイキャスト(交換可、EIA規格、自重10.3g)
アームリフター……………オイルダンブ型
インサイドフォースキャンセラー……………カウンターウェイト
& ローラーストリング方式

■付属機構

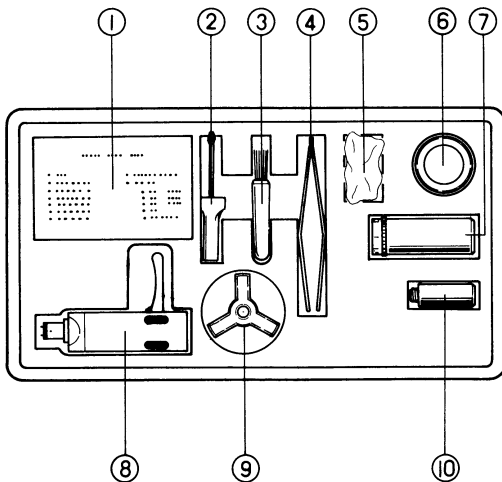
ダストカバー……………着脱可・フリーストップピンジ付
大型インシュレーター……………高さ調整可能、
2重ダンパー内蔵

■総合

定格電源電圧……………A C 100V
定格電源周波数……………50Hz, 60Hz
定格消費電力……………5W
外形寸法……………(W×H×D)mm 470×155×(378+21ヒンジ)
重量……………14kg

■規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

●付属品



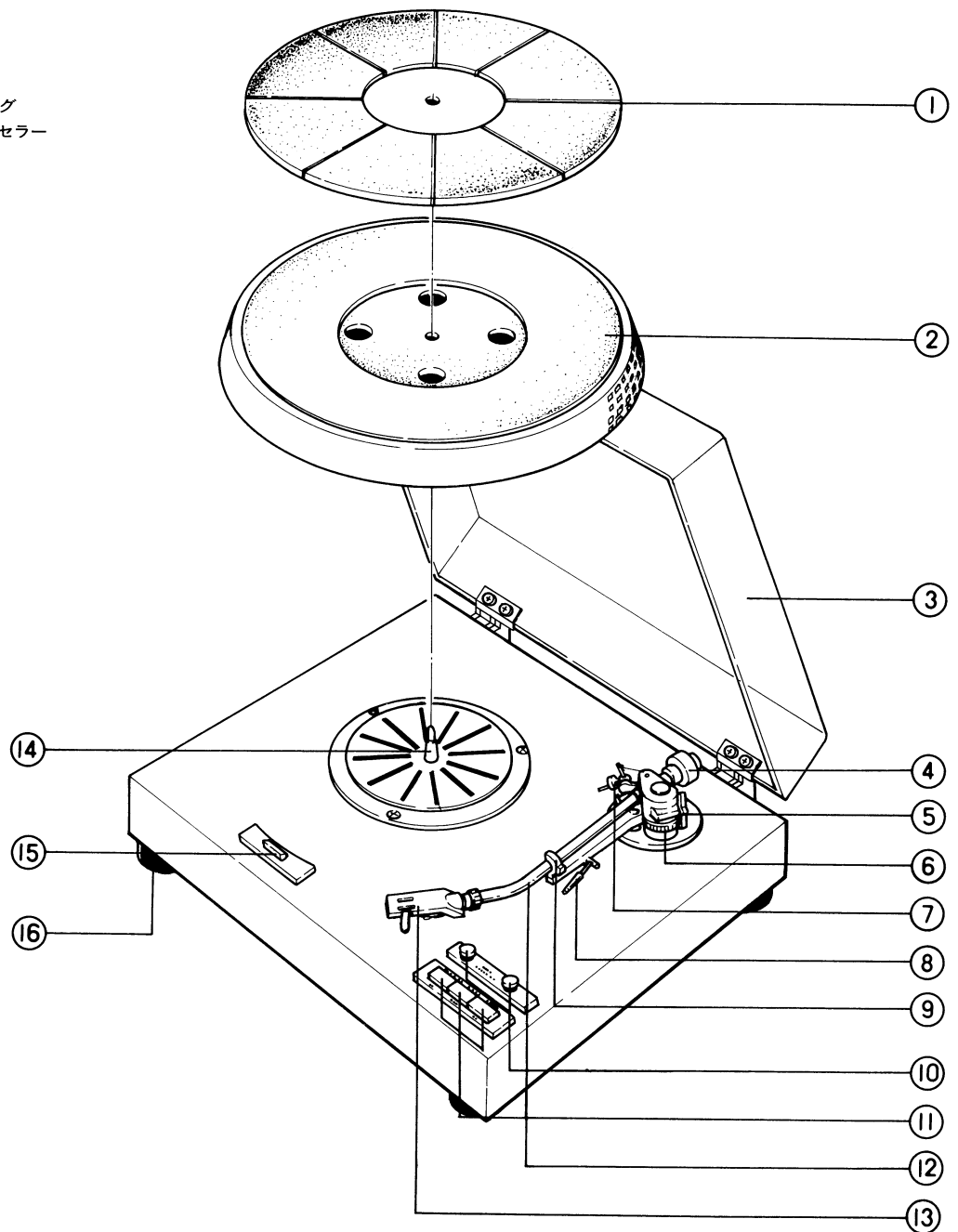
- ① アーム部品ラベル
- ② ⊖小ドライバー
- ③ 針先掃除用刷毛
- ④ ピンセット
- ⑤ カートリッジ止メビス $\ell = 16\text{mm} \times 2$
 $\ell = 19\text{mm} \times 2$
 $\ell = 10\text{mm} \times 2$

カートリッジ止メナット×2

- ワッシャー×2
- ⑥ ウェイトカラー
- ⑦ メインウェイト
- ⑧ ヘッドシェル
- ⑨ EPアダプター
- ⑩ サブウェイト

各部の名称

- ① ゴムシート
- ② ターンテーブル
- ③ ダストカバー
- ④ メインウエイト
- ⑤ ロックネジ
- ⑥ アームアジャスターリング
- ⑦ インサイドフォースキャンセラー
- ⑧ アームリフター
- ⑨ アームレスト
- ⑩ スピード調整ツマミ
- ⑪ スピード切換スイッチ
- ⑫ トーンアーム
- ⑬ ヘッドシェル
- ⑭ センターシャフト
- ⑮ ストロボ照明ランプ
- ⑯ インシュレーター



●ご挨拶

このたびはヤマハステレオレコードプレーヤーYP-D7をお買い求めいただきましてまことにありがとうございました。YP-D7はダイレクトドライブ方式の最高級ターンテーブルとすぐれたトレーシングアビリティーをもつ高感度トーンアーム、共振を抑えた堅牢なキャビネットで構成された高級プレーヤーシステムです。YP-D7を長年にわたって支障なくお使いいただくため、この取扱説明書をご使用の前には是非お読みくださいますようお願いいたします。

●目次

プレーヤー各部の名称	3
規格・付属品	4
特長・ご使用になる前に	5
プレーヤーの組立	
ダストカバーについて	6
ターンテーブルの取付	6
水平バランスについて	6
カートリッジの取付	7
トーンアームの組立	8
トーンアームの調整	
トーンアームの高さ調整	8
トーンアームのバランス調整	9
針圧調整	9
インサイドフォースキャンセラーの調整	9
アームリフターの使い方	10
オーディオアンプへの接続	
オーディオアンプへの接続	10
スピード調整	11
レコード演奏のしかた	11
故障と思われる時には	12
サービスのご依頼について	13

ご使用になる前に

●特長

- 駆動モーターに起動トルクの大きいDC、FGサーボモーターを採用したダイレクトドライブ方式。低速でターンテーブルを直接駆動する理想的な形式のプレーヤーシステムです。
- アルミダイキャストのターンテーブルは精度の高い工作技術で仕上げられ、自重1.6kg、慣性能率が大きくワウフラッターを極限まで抑えています。
- 余裕のある安定化電源を用い、電源電圧の変動による影響をなくしています。さらに各回転数ごとに±3%の微調整をすることが可能で、ストロボスコープにより正確な回転を確認できます。また、ワンタッチ操作のスピード切替スイッチはすぐれたタッチフィーリングをもっています。
- 多様化しているカートリッジのキャラクターを十分に反映するトーンアームは、ジンバルサポート方式の超高感度S字型アームです。
- 強固な亜鉛ダイキャスト製アームベース、ストローク6mmのアームエレベーション可能なアームスタンドは外部の振動を抑え、市販のほとんどのカートリッジの高さをカバーできます。
- 共振を抑えたゴムシートは、マグネシウムヘッドシェルと共に特性、音質とも高いクオリティーを実現しています。
- 高密度なパーティクルボードのケースは特殊形状の大型インシュレーターやプレーヤーを内部部品のプロットなどと共に、外部からの有害な振動を抑えハウリングに強い設計になっています。
- マニアライクなトーンアーム、そしてブラック仕上げのデザインは、人間工学を追求した操作性とともに、オーディオの世界に大きく先行するヤマハならではの製品です。

●次のことにご注意ください

- 電源電圧は定格の100ボルトでご使用ください。
- 直射日光や火気の強い場所、湿気の多い場所に設置することは避けてください。
- スピーカーシステムの近くや振動の多い場所に設置することは避けてください。床や台はなるべくしっかりした場所を選んで設置してください。
- 接続するオーディオアンプと並べて設置する場所は、YP-D7を右側にするようにしてください。カートリッジの近くにアンプの電源トランスが位置すると誘導ハム(雑音)を生ずることがあります。
- 木製のキャビネットを清掃する場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。シンナー系の溶剤などは使うことを避けてください。
- ダストカバーを清掃する場合は、ポリシングクロス、または同系の柔らかい布で乾拭きしてください。
- 6ページに説明するように水平に設置してご使用くださるようお願いいたします。
- お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

プレーヤーの組み立て

●ダストカバーについて

ダストカバーは、着脱可能になっていますので、ご希望により取り外してご使用になれます。トーンアームの組み立てはダストカバーを取り外した方が楽におこなえます。図1のように突起と溝を合わせて矢印方向に押しながら取り外してください。取り付ける場合は逆におこなってください。

●ターンテーブルの取り付け

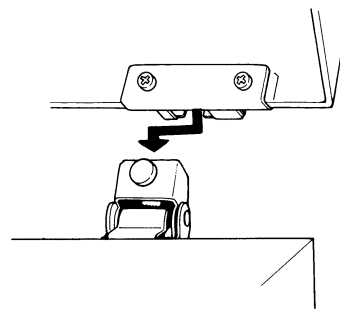
別梱包の中からターンテーブルを取り出し、センターシャフトにはめてください。(図2)
その後、ターンテーブルにゴムシートをかぶせます。

●水平バランスについて

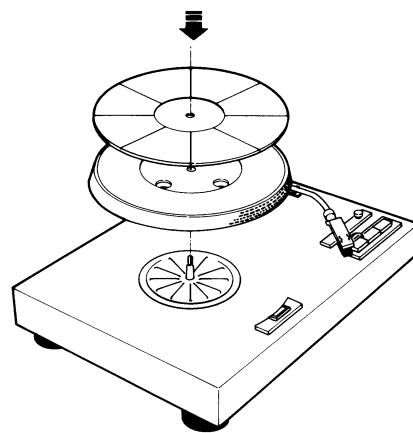
プレーヤーの設置で大切なことは、本体を水平に保つことです。水平でないと本来の高性能を発揮できない場合がありますので本体は必ず水平に設置するようにしてください。

キャビネット底面の4隅に外部振動を吸収するインシュレーターを兼ねた足があり、高さ調整機構が組み込まれています。図3のように足を左右に回せば高さを調整できますので水準器などを使ってターンテーブル面が水平になるように微調整してください。

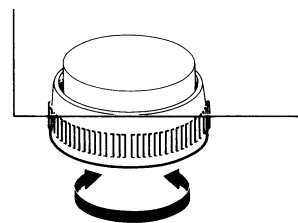
1 ダストカバーの着脱



2 ターンテーブルの取り付け

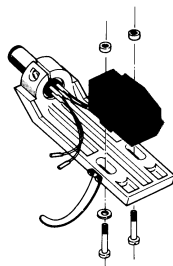
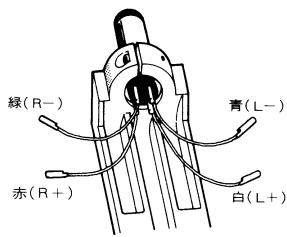


3 高さ調整



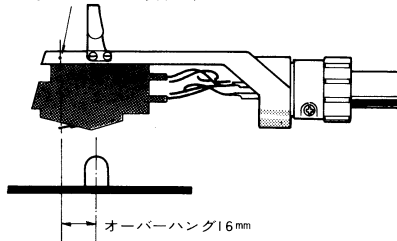
カートリッジの取り付け

4 ヘッドシェルへの取り付け



5 オーバーハング

オーバーハング表示位置



●カートリッジの取り付け

■使用できるカートリッジの自重

YP-D7には、カートリッジは付属しておりませんのでお好みのカートリッジをご使用ください。

YP-D7のヘッドシェルには自重2g～15gまでのカートリッジが取り付けられます。(サブウェイト使用時9～23gまで)

■ヘッドシェルへの取り付け

ヘッドシェルにカートリッジを取り付ける場合は、リード線の接続を間違えないようにカートリッジの各ピンに正しく接続してください。(図4)

また、トーンアームのオーバーハングは16mmに設計されていますので、センターシャフトの中心と針先の間が約16mmになるようにカートリッジを動かし調整してください。(図5)

尚オーバーハングは図5に表示されているように、オーバーハング表示位置に針先を合わせますとオーバーハング16mmがとれます。

■針先の寿命について

針先は一般にダイヤモンド針を使用しています。針先の寿命はご使用になるレコードの状態によって異なりますが、ダイヤモンド針で200～300時間が平均です。針先が磨耗すると音が歪んだりビリついたりする上、レコードを痛める原因にもなりますので、針先は早めに交換してください。

アームの組み立て・調整

● トーンアームの組み立て

- ①別梱包の中からメインウェイトを取り出し、ウェイトカラーをメインウェイトのほぼ中央に差し込んでから矢印の方向に回しながらトーンアーム尾部に押し込みます。(図6)
メインウェイト内部のラセン溝とアーム尾部のクリックストッパーがかみ合い、ウェイトはアーム正面から見て反時計方向(左)に回すと前へ、時計方向(右)に回すと後へスムーズに移動するようになります。
- ②カートリッジ付のヘッドシェルを、シェルの突起ピンを上にしてアーム先端のロックナット部へ差し込み、ロックナットリングを回して固定します。(図7)

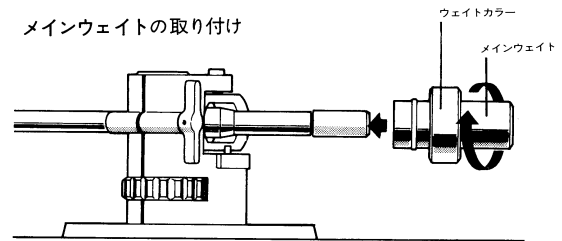
● トーンアームの調整

トーンアームの組み立てが終了したら、高さ調整—バランス調整—針圧調整—インサイドフォースキャンセラーの調整の順にトーンアームの調整を行ってください。

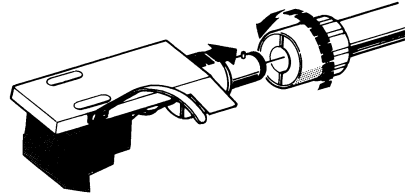
■ トーンアームの高さ調整

- ①アームリフターレバーを下げ、針カバーのあるカートリッジは針カバーを上げておきます。
 - ②ターンテーブルにレコードを乗せ、針先をレコード面上に置いてみます。トーンアームがレコード面と平行になるよう軸受部のアームベースのロックネジをゆるめてから、アームアジャスターリングを左右に回してトーンアーム全体を上下に調整し、平行がとれたらアームベースのロックネジをしっかりと締めます。(図8)
- (注)この調整を行うときには、針先とレコードを傷めないように慎重に操作してください。
- ③トーンアームの高さ調整が終了したら、トーンアームをアームレストに戻してください。アームレストは図9のようにトーンアームをロックすることができます。

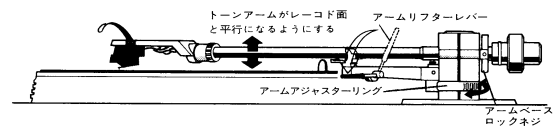
6 メインウェイトの取り付け



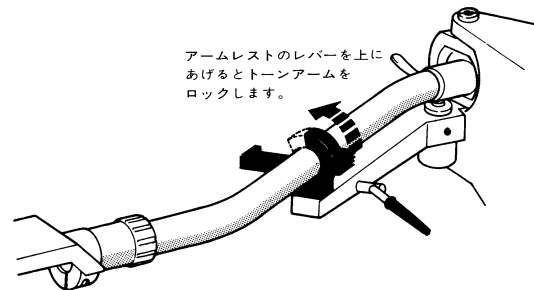
7 ヘッドシェルの取り付け



8 トーンアームの高さ調整

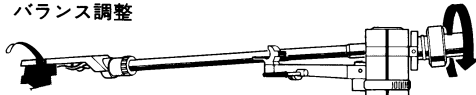


9 アームレスト

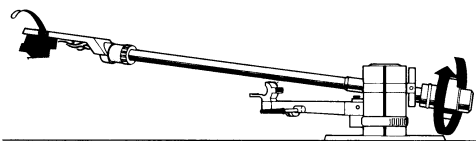


アームの調整

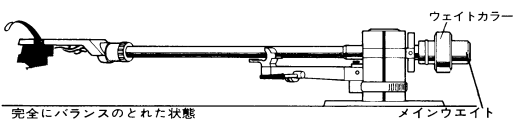
10 バランス調整



頭部が重すぎる(矢印方向にウエイトを回す)

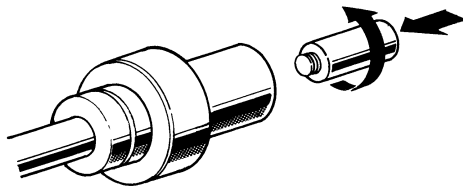


尾部が重すぎる(矢印方向にウエイトを回す)

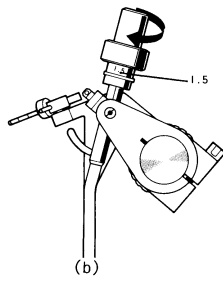
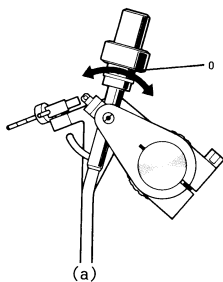


完全にバランスのとれた状態

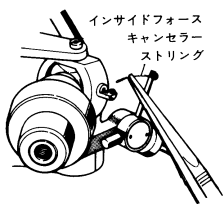
11 サブウエイトの取付け



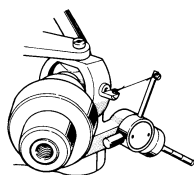
12 針圧の調整



13 インサイドフォースキャンセラー



インサイドフォース
キャンセラー
ストリング



■トーンアームのバランス調整

- ①アームリフターレバーを下げたまま、針カバーのあるカートリッジは、カートリッジの針カバーをして、アームをアームレストから引出します。
- ②ヘッドシェルフィンガーフックから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下り、メインウエイト側が重ければ尾部が下ります。
- ③トーンアームが完全に水平になるように図10を参考にしてメインウエイトを前後させ調整します。メインウエイトはゆっくり回すようにしてください。
- ④バランスがとれましたら、トーンアームをアームレストに戻します。
- ⑤メインウエイトでバランスがとれない場合には、ウェイトカラーを前後に動かしもう一度、バランス調整をおこなってください。
- ⑥カートリッジ重量が重くバランスがとれない場合は、付属品のサブウエイトをつけ、もう一度バランス調整をおこなってください。(図11)

■針圧調整

- ①水平バランスがとれた時のメインウエイトの位置を動かさないようにして、ウエイト前部のカウンターリングだけを回し、数字“0”をトーンアームの黒ラインに合せてください。(図12)(a)
- ②メインウエイト本体を回しますとカウンターリングも一緒に動きますので、メインウエイトを図11(b)の矢印方向にゆっくり回し、適正針圧の値を黒ラインに合せます。ひと目盛0.5、1回転で3gの針圧が得られます。カートリッジの適正針圧が仮りに1.5gなら“1.5”をトーンアームの黒ラインに合せます。

■インサイドフォースキャンセラーの調整

- ①付属のインサイドフォースキャンセラー・ストリングでトーンアーム軸受部のローラーとローラーアームのローラーをつなぎます。(図13)

アンプへの接続

② バイアス調整ウエイトの位置は針圧によって決まります。バイアス調整ウエイトを動かしてみるとバイアスレバーに刻まれた溝ごとに軽いクリックがあります。一番奥のクリックが1.0g、あとは0.5gステップで、一番手前のクリックが3.0gのときの位置です。カートリッジの適正針圧が仮りに1.5gならバイアス調整ウエイトは1.5gの位置にセットします。(図14)

■アームリフターの使い方

アームリフターはレコード面に針を降すときや針を上げるときなどに、直接ヘッドシェルに手をふれることなくトーンアームを昇降させることができ、針やレコードを痛めることはありません。

① 針を降ろすとき

アームリフターレバーを上いっぱい上げておき、トーンアームの針先をレコード面の希望位置に合わせてからレバーを下げます。針先は油圧シリンダーによってゆっくりとレコード面に降ります。(図15)

② 針を上げるとき

演奏中または演奏終了後は、レバーを上にあげれば、針先がレコード面から離れます。

●オーディオアンプへの接続

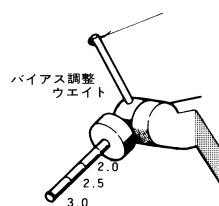
① キャビネット背面から出ている出力コードを、L、Rを間違えないようにオーディオアンプのPHONO端子に接続します。白がL(左)チャンネル、赤がR(右)チャンネルです。

② 出力コードから出ている黒のアース線を、オーディオアンプのGND端子に接続します。アンプによっては接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得られることがありますので、ハム雑音の少ない方を選んでください。(図16)

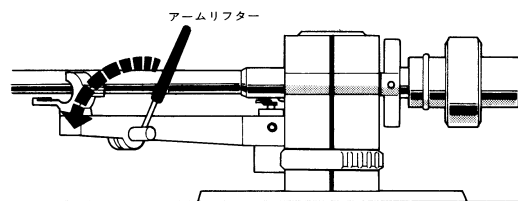
③ 接続するオーディオアンプに入力インピーダンススイッチがある場合は、ご使用カートリッジのインピーダンスに一番近い値のポジションにセットしてください。

④ プレーヤーの電源プラグをACコンセントかアンプの予備電源コンセントに接続します。

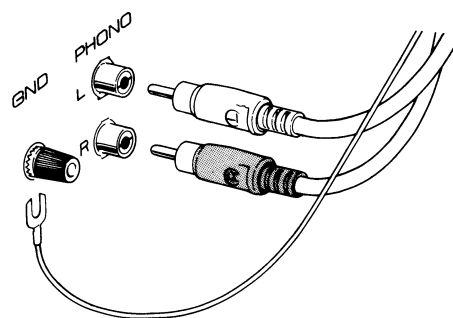
14 バイアス調整ウエイト



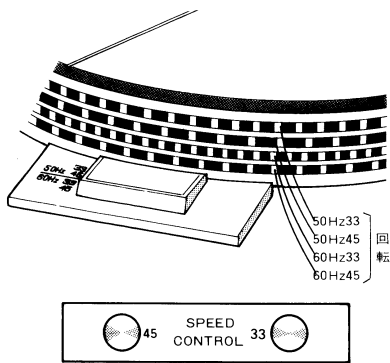
15 アームリフターの使い方



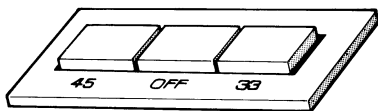
16 オーディオアンプへの接続



17 スピード調整



18 スピード切換スイッチ



●ターnteーブルのスピード調整

モーターは電源の電圧変動や周波数変動に対しても、正確な回転数を維持するよう電源部に電圧安定化回路を内蔵し電子速度制御を行なっています。従って、一度スピード調整つまみ(SPEED CONTROL)を動かし、ストロボスコープを見てご使用地域の周波数に合った縞目が止まるように調整しておけば回転数の変動はありません。しかも、33 $\frac{1}{2}$ 回転と45回転はそれぞれ独立して調整でき他方に影響を与えません。(図17)

なお、スピード調整つまみにより回転数は±3%可変できますから、ピッチコントロールとしても使えます。

(注)ストロボコープの縞目が時々ほんのわずか流れて静止しない場合がありますが、これは電源周波数の変動によるもので故障ではありません。

●レコード演奏のしかた

- ①接続したオーディオアンプのFUNCTION(入力切換)スイッチのPHONOポジションにします。
- ②演奏するレコードに合った回転数のスピード切換スイッチ(33または45)を押すとターンテーブルが回転し始めます。(図18)
- ③ストロボスコープで回転を確認してください。
- ④アームリフターレバーを上まであげ、針先をレコードの演奏希望箇所の上にもっていきレバーを静かに下げます。
- ⑤レコード演奏が終了したときまたは途中でやめるときは、アームリフターレバーを上まであげると針先はレコード面から離れますので、トーンアームをアームレストに戻しOFFボタンを押してターンテーブルを停止させます。ターンテーブルは慣性でしばらく回り続けます。

時には……

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑問の

点がございましたら、お買上げ店又は日本楽器各支店のオーディオ技術係にサービスをご依頼ください

症 状	原 因	処 置
スイッチを押してもターンテーブルが回らない	電源コードがACコンセントにしっかり差し込まれていない	コンセントにしっかり差し込み直してください。
ターンテーブルの回転が遅すぎる又は速すぎる	調整ずれ	調速ツマミとストロボスコープで正しく調整してください。
調速ツマミを調整してもストロボスコープの縞が止まらない	調速ツマミの誤調整	調速ツマミの回転数とストロボスコープの周波数と回転数を照合し再び調整してください。
	ストロボスコープの見間違い	ストロボスコープ横の表示により周波数と回転数を確認し再び調整してください。
カートリッジを交換した時など0バランスがとれない	カートリッジが重い又は軽い	メインウェイトを後側にずらして再調整してください。ウエイトカラーを後方にずらして再調整してください。サブウェイトを差し込んで再調整してください。
トーンアームが降りない	アームリフターがUPの位置になっている。	アームリフターの使い方の項を参照し正しく操作してください。

針先をレコード面に降ろしても音が出ない	シェルコネクタの接触不良	コネクタのピンを布でみがいてください。
	アンプのファンクションがPHONOになっていない	ファンクションを正しくPHONOに合わせてください。
	アンプのボリュームが絞られている	ボリュームを適当な位置まであげてください。
	プレーヤーの出力コードの接続不良	アンプリアーパネルの接続端子を確認してください。
カートリッジの腹がレコード面に接触する	針圧が重すぎる	適正針圧にしてください。
	トーンアームの高さが不適當	トーンアームの高さを正しく調整してください。

再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”“バチ、バチ”という音がし、特に高音域がひずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている	水準器を使って水平に設置してください。
	針先にホコリなどが付着している	針先を柔らかいハケなどできれいにしてください。
	針先が磨耗している	針先を交換してください。
	レコード自体が傷んでいたたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してください。
	針先が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直してください。
	アンプの高音をあげすぎている	高音をFLATポジションに戻してみてください。
再生音がふるえたり、ハウリング（ボウーンという音）を起して聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてください。部屋のコーナーは避けてください。
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る	プレーヤーのアース線をアンプのアース端子に接続していない シェルコネクタの接触不良	アース線をアース端子に接続してください。(接続しない方がいい場合もあります。)コネクタのピンを布でみがいてください。

依頼について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年で
す。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切
いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもって
サービスを実施致します。尚、補修用性能部品の保有期
間は8年となっております。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がござい
ましたら、まず本文中“故障と思われる時には……”の項
をお読みになってください。意外と故障ではない場合があ
るものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障で
ない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますの
でご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話
番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不
在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知
らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねし
たいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更
しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけ
しないですみます。)

■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご
自分でお買上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ち
いただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右下欄
のオーディオ技術係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地
と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできる
だけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番

号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品
などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

■サービスのお約束

昼間ご不在がちのお客様や留守がちのお客様は、できるだ
けお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。
万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ
早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重
負担が防止でき、お徳です。)

■各支店住所 (オーディオ技術係)

東京支店・〒101	東京都千代田区外神田3-10-12 TEL (03)255-2241
横浜支店・〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL (045)212-3111
千葉支店・〒280	千葉市千葉港2-1(千葉コミュニティセンター内) TEL (0472)47-6611
関東支店・〒370	高崎市歌川町8番地(高崎センター内) TEL (0273)27-3366
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
神戸支店・〒651	神戸市灘区浜辺通り6-1-36 TEL (078)232-1111
四国支店・〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL (0878)33-2233
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸支店・〒921	金沢市泉本町7-7 TEL (0762)43-6111
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL (0222)95-6111
広島支店・〒731-01	広島市祇園町西原862 TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市幸3丁目5号 TEL (0534)74-0311

日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430・浜松市中沢町10-1 TEL・0534(65)1111	四国支店	〒760・高松市西宝町2丁目6-44 TEL・0878(33)2233
東京支店	〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	名古屋支店	〒460・名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
銀座店	〒104・東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3131	北陸支店	〒921・金沢市泉本町7-7 TEL・0762(43)6111
渋谷店	〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7 TEL・03(463)4221	九州支店	〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(472)2151
池袋店	〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL・03(981)5271	福岡店	〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL・092(721)7621
横浜支店	〒231・横浜市中区本町6-61-1 TEL・045(212)3111	小倉店	〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
千葉支店	〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内 TEL・0472(47)6611	北海道支店	〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL・011(512)6111
関東支店	〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL・0273(27)3366	仙台支店	〒983・仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL・0222(95)6111
大阪支店	〒564・吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	広島支店	〒730・広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
心斎橋店	〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL・06(211)8331	浜松支店	〒430・浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
神戸支店	〒651・神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36 TEL・078(232)1111	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ シンガポール・フィリピン